

教育の一環としての給食

学校給食の始まり

明治22年に山形県の小学校において、当時十分に食事のできない子どもたちに、昼食を食べさせたことが、学校給食の始まりといわれています。

学校給食の役割

自分の健康のために何をどれだけ食べればよいかということをお教え、正しく判断し実践させることが大きな課題となっており、教育の一環としての「学校給食」は、大変重要な役割を持っています。

ます。

学校給食の主な目標

「学校給食法より」

- 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること
- 学校生活を豊かにし、明るく

農業体験「小学校の取り組み」

食の大切さを伝えたい

市内の小中学校では総合的な学習の時間の活動として、「農業体験」に取り組んでいます。

社交性及び協同の精神を養うこと

- 食生活が食に関わる人々のさまざまな活動に支えられていることについて、理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと

- 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化について、理解を深めること

地域の方から教わりながら米作りや野菜作りを勉強すること

で、自分が口にする食材について知り、それに携わる方や食べ物に対して感謝の気持ちを持つ

でしょうか。

子どもたちのためにも、ご自身の食生活をいま一度振り返ってみてください。

次代を担う子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、自分の健康は自分で守ることができるよう、学校・家庭・地域社会が連携協力して食育の輪が広がっていくことを期待しています。

食育を進めるため、最も有効な手段である学校給食を通して、これからの一生涯懸命めてまいりますので、ご協力よろしくお願ひします。

interview インタビュー

栄養教諭 菊池 佳美 さん

栄養教諭として学校給食に携わり、献立や栄養指導をはじめ、子どもたちに健康的な食生活を送るために、健康な食生活を



子どもたちのためにも「食」に関心を…

皆さまのご家庭では、いかが

食は、人間が生きていく上で基本的な営みの一つで、生涯を通じて心身ともに健康で豊かな生活を送るためには、健全な食生活は欠かせないものです。しかし、近年食生活を取り巻く環境の変化などに伴い、朝食などの欠食、孤食（独りで食事をとること）、偏った栄養摂取など子どもたちの食生活の乱れや肥満傾向の増大、やせ過ぎなどが見られ問題となつていきます。

給食にはできない「食」

市では、子どもたちに食を通して健康な体作りを考えるため、平成20年度から「お弁当の日」を実施しています。主なねらいは、次のとおりです。

- 家族と子どもが一緒に「買いもの」を作る（買い物、調理準備、調理、盛り付け、後片



- 食べ物や粗末にしない子どもを育てます。

あたたかさを感じるお弁当

付けなどを通して、自らの「食」への関心を高める機会としていきます。

- 小学校高学年や中学生は、お弁当を自分で作ることに、

「食」の大切さや給食を作ってくださる方への感謝の気持ちを育てます。

てほしいという思いで始められました。



田植え体験を行う子どもたち（本年5月）

収穫されたお米や野菜は、給食で食べることをはじめ、各学校で秋のイベントに活用するなど、人と人との触れ合いを通じて「食」の大切さについて体験活動をしています。

農業体験でまず大事なことは、水の管理や病気・害虫予防など、農家の方々の多くの苦勞があつて、自分たちが安全・安心なお米や野菜を食べられることに気付くことです。

児童は、土を耕したりする実体験を通してお米や野菜を大切に作っている方に感謝し、食べ物大切にしていこうとする気持ちを持つなど、豊かな心の育成につながっています。